



『ゆめ』 『なかま』 『ふるさと』 相浦小学校 学校便り

# 愛宕の山から吹く風に

令和5年6月19日発行

文責：校長 橋爪良仁

水無月6月も中旬を過ぎました。学校便りの発行がとても遅くなってしまい、申し訳ありませんでした。夏休みまであと1か月。『いのちを見つめる強調月間』である今月、子どもたちはそれぞれの学年で友達と協力しながら学びを深めているところです。



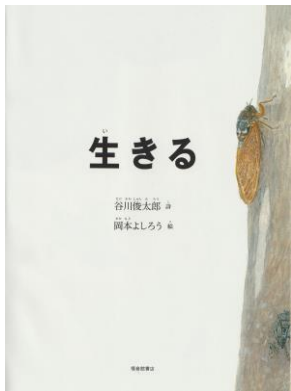
## 1 運動会、大成功でした！

5月21日（日）、令和5年度の運動会を開催することができました。昨年度までは新型コロナ感染防止のため、地域の皆様をお呼びすることができず、人数等の制限・制約もありましたが、今年度は地域の皆様や保護者以外のご家族の皆様にもご来校いただくことができ、とても賑やかな運動会となりました。当日は朝からとても良い天気、子どもたちも基本的にマスクを外して活動をしていたので、子どもたちがはじける笑顔で元気に走る姿、踊る姿、応援する姿などを皆様にお見せすることができ、とてもよかったです。ご参会いただいた皆様、最後まで温かいご声援をいただき、ありがとうございました。運動会運営に当たっては、今年度もPTA役員の皆様の多大なご協力がありました。また、保護者の皆様には運動会後の片づけに最後まで協力していただきました。本当に感謝しています。ありがとうございました。子どもたちが、この運動会を通して経験し、身につけた様々なことを、これからの学校生活に生かしていけるよう、指導をしていきます。

## 2 いのちを見つめる強調月間について

今月は前述した通り「いのちを見つめる強調月間」です。19年前に市内小学校で起きた痛ましい事件から19年になります。6月1日は佐世保市民にとっては決して忘れることのできない『いのちを見つめる日』。本校でも朝から全校朝会を行い、「いのち」についての講話を行いました。今年はリモートではなく、全校児童の前でお話をすることができました。谷川俊太郎さんの「生きる」という詩をもとに話をしました。ご存じの方も多いかと思います。まだ読まれたこと

のない方は、インターネットで検索されてみてください。少しばかり難しい内容なので、絵本を体育館のステージに映し出し、かみ砕きながら話しました。講話の最後に次のように話しました。



『鳥がはばたいたり、カタツムリが這ったりすることが当たり前のように、わたしたち「人」は当たり前のように「愛する」し、あなたの手は温かい。命がなくなるということはそれらがすべてなくなってしまうことなのです。あなたが生きている今は、何でもない毎日のようだけど、あなたが生きているということは、絶対に欠かすことのできない事なのです。だから、何よりも大切にしなければならない。それは、あなたの隣にいる友達、周りの人たちも同じです。あなたが生きている今、周りの人が生きていることも欠けてしまっはいけないことなのです。だからこそ、私たちは自分の命も周りにいる人の命も大切にしなければならないと思います。』

ぜひ、ご家庭でも「生きているってどんなことだろう」ということについて、ぼんやりでいいので話し合う時間を取っていただければと思います。

『いのちを見つめる強調月間』の一環として、本日（6月19日）から金曜日までの5日間は学校開放週間となります。昨年度までは保護者の方のみにご案内していましたが、今年度は地域の代表の皆様にもご案内を差し上げました。また、地域にお住いの一般の皆様にも、本校の子どもたちの学習の様子をぜひご覧いただければと思っております。お誘い合わせの上、ご来校いただけると幸いです。

期間：6月19日（月）～6月23日（金）

時間：午前9時～午後3時30分

※学校開放に合わせて、20日(火)は1・2年生、22日(木)は5・6年生、23日(金)は3・4年生の授業参観（道徳）・懇談会が午後に行われます。

### 3 学校外で活躍する「相浦っ子」を紹介します

#### 第55回佐世保剣道協会ライオンズ旗争奪剣道大会(4/29)

- 2年 ○○ ○○ 小学校女子2年生以下の部 優勝
- 6年 ○○ ○○ 小学校男子6年生の部 第3位



#### 佐世保市民陸上競技選手権(5/5)

- 4年 ○○ ○○ 女子小学4年 100m 第3位（16秒72）
- 女子小学4年1000m 第3位（4分17秒17）
- 5年 ○○ ○○ 女子小学5年1500m 第1位（6分4秒37）

#### 高円宮賜杯第43回全日本学童軟式野球マクドナルドトーナメント長崎県予選(5/5)

相浦クラブ 第3位

#### 九州小学生4年生テニス選手権大会(5/8)

- 4年 ○○ ○○ 女子シングルス 優勝



..... 切り取り .....

※ ご意見、ご感想がありましたら下欄に記入され、子どもたちを通してご連絡ください。